

自閉症スペクトラムの特性

支援の仕事(基礎編)

1. 自閉症の3つ組

- 1.社会性
 - 2.コミュニケーション
 - 3.想像力(他人の頭の中のことは想像しにくい。こだわり)
 - ※ これらは DMS-IV によっている。V では2つ組になった。
- 感覚の違い(聴覚過敏や触覚過敏、あるいは鈍感)
※こちらは昔から言われていましたが正式には SMS-V から下位項目に入った。

2. 3つ組以外の特性

- 視覚情報処理に強く、聴覚情報処理はしにくい
- 段取りや手順がわかりにくい
(時間の流れがわかりにくい)
- 目の前のことで頭がいっぱいになる(シングルフォーカス)
- 開始がしにくい。

※これらの特性を理解されず

- ・わかってるのに言うことを聞かない、反抗的である
- ・わざと悪いことをする
- ・さぼりである、怠けている
- ・指示待ちである
- などと見当違いの理解をされてしまうことが多い

障害のあるお子さんへの仕事

- お子さんの成長につきあう
 - ・お子さんに、優しげに声をかけること、できないことをしてあげること、ではない。
 - ・お子さんの「やりたいこと」が「ひとりで、わかって、できる」にはどうしたらいいか考え、その環境を作る。そのためにはまず「黙って」「見る」
 - ・友達と遊べるようにする時も、「ルールを教える」より先に「その子に何がわかってできるのか」を知り、その子が興味をもっていそうだったら、遊びに使っている物を差し出してみたり、一声だけかけてみたりする。(何度も誘う必要はない)

○どんな大人になって欲しいのか

- 自分で「判断し」「選択し」「表現し」「行動し」「行動の責任をとれる」人
- 「他人の指示に従える人」ではない
- 「学校文化」に適應できる人ではない(例。集会で並ぶ。呼ばれたら「はい」と言って手を挙げる。就労のさいによく言われる「挨拶」も人による。「挨拶」が困った行動になっている人もいる)
- ノーマライゼーション「普通の人」にすることはなく、障害があるままに「普通の生活」ができること

基本的な体の使い方や関わり方

- ・トラブルになりそうな子たちがいたら、間に体を入れる
 - ・何かを伝える場合、後ろからの声かけでお子さんを動かそうとしない
 - ・何かを伝える場合、お子さんの正面に回り、目の高さを合わせ、できればアイコンタクトをとり、
 - 「指さし」
 - 「実物提示」
 - 「カード提示」
 - 「その場で書いて・描いて」
- などをする。音声言語をつける場合は「短く」「小さめの声」で。